

パーマナント
コース報告

38年の歴史に幕

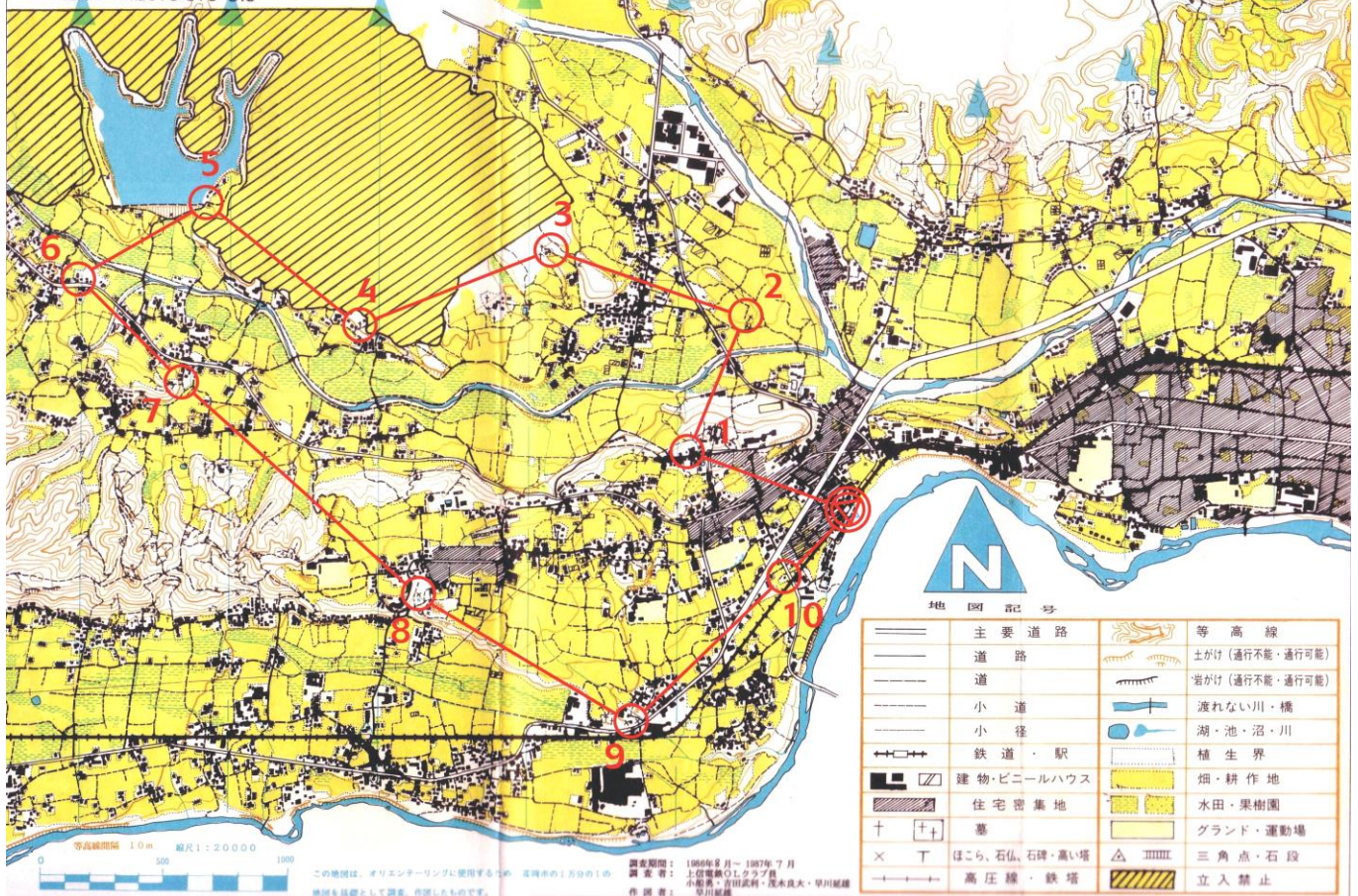
大高竜亮

富岡コース 群馬県富岡市

関東地区Oレパーマナント・コース
上州一ノ宮 111
112
群馬県富岡 65
JOLC登録コース:No.575-576-319

★ このコースの特徴と注意事項 ★
群馬県の南西に位置する当コースには、創祀1480年前の旧国幣中社貫前神社で、石段を下ってから鎮座している珍しい神社がある。妙義・赤城・榛名・荒船・稲倉の山並、奇勝妙義の山影を湖面にへら釣りりと周囲5kmの人造湖もあり修験道行者の草庵であった施無畏寺はつつじ、桜の名所でもあります。

スタート地点までの交通機関
上信電鉄「上州一ノ宮駅」下車
上信電鉄「神農原駅」下車
地図取扱所
上信電鉄上州一ノ宮駅(〒370-24 群馬県富岡市一ノ宮226-2 ☎0274-62-3138)
上信電鉄神農原駅(〒370-24 群馬県富岡市神農原674-2 ☎0274-63-7197)



「富岡」コース 群馬県 No.65
JOA 公認 No.319 10km 10ポスト

38年の歴史に幕一

昭和50年3月31日に開設された群馬県富岡コース。管理者の後継問題から6月1日をもって廃止となるのが決まり、その最後の姿を見届けるために再訪することとしました。同時に廃止となる甘楽の里の3コースとあわせ、1泊2日で4コースまとめて歩く計画です。

富岡コースの38年の歴史の中には、2度のコース変更が行われています。開設当初は丹生湖の東に広がる丘陵地帯と上信電鉄の線路に近い神成山を結ぶ、アップダウンのある健脚向きの設定でした。その後、丹生湖周辺が富岡ゴルフ倶楽部として造成されたことから、スタート地点を神農原駅とする全く新

しいコースが昭和の終わりに生まれ、2006年10月には同一エリアにあった上州一ノ宮 AB コースの廃止に伴って、3コースを組み合わせた現在のコースに継承されています。開設当時とは打って変わって平坦なコースとなったのも、管理面からの流れと言えるでしょう。

最終日となったこの日は、甘楽の里・城下町コースと見晴しコースを設定どおりに回った後、3コース目に富岡コースの探索となりました。急遽お呼び立てした太田市在住の土井洋平氏と見晴しコース終了時に合流し、上州一ノ宮駅へ向かいます。

駅に降り立つと廃止された上州一ノ宮 AB コースの案内板が古びた姿で残されています。87年調査の古いものですが、マップは駅近くの「みさきや」という和菓子屋さんで入手。マスターもここにあり、店内で転記させていただ

きました。名物という梅どら焼きを土井氏とともに購入し、本日3コース目を15時41分にスタートします。



最初のポストは上野国一之宮貫前神社境内に設置されています。駅前から街中を抜け、きつい坂道を上り詰めると鳥居が見えてきます。樹齢千年という市指定天然記念物スダジイの下に更新された標準サイズのポストが立って

います。まだまだ新しいポストで、今日限りで廃止となるのが全く実感できません。境内入口から石段を下る「下り宮」であることが貫前神社の特徴で、眼下に朱塗りの楼門が控えています。参拝記念に神社のオリジナル朱印帳を購入し、御朱印をいただきました。



第2ポストは境内の北側の林に続く小道を下り、主要道路に抜け出します。丹生川を渡った先、ポスト周辺はマップ作成時と大きく変わり、住宅地となっています。かつては阿曾岡の万葉歌碑横にひっそり置かれていたポストは、歌碑から引き離されて阿曾岡公園として整備された広場に堂々と直立しています。

街中を西に向かい、小山を南から回りこんで法華堂というお堂の前で第3ポストを確認します。かつては小型ポストに置き換えられた群馬県ですが、その後改めて標準サイズのポストへの立て替えが進められています。

ゴルフ場の回避を余儀なくされる区間で、第4ポストへは出戻りです。里道を進み、小さな神社の境内でポストを認め、丹生湖を目指します。

丹生湖は灌漑用の人造湖で、造成は戦後の昭和27年のこと。今はへら鮒釣りのメッカとして知られ、冬季はワカサギ釣りも楽しめるフィッシング天国です。かつては堤の東西両端にポストが設置されていましたが、コース再編を機に西端のポストは廃止されています。第5ポストである堤東端のポストは金網近くにあり、発見は容易です。



堤を横断し、南に下って第6ポストを丹生神社境内で確認。入口にある碑には明治22年まで存在した「下丹生村」の文字が見られます。上丹生村、原村と合併して丹生村が誕生し、昭和35年に富岡市に編入されています。

主要道路を歩き、南に僅かに入った地点の竹林前にある第7ポストを順調に通過し、最長区間の第8ポストへ向かいます。初代、2代目共にコース終盤は神成山を經由していましたが、今はここもカットされています。3コース目で疲労の溜まった足には優しいものの、面白味はすっかりなくなりました。周囲を見渡すと、富岡製糸場を中心にかつて盛んだった養蚕業の面影を残す桑畑が辛うじて残る光景に出会えます。以前寄居Aコースでレポートしたように、養蚕業の衰退は顕著であり、桑畑が姿を消すのも時間の問題かもしれません。市立西中学校の横をかすめ、宮崎公園に入ると唯一残された小型のポストが迎えてくれます。

87年調査の地図では、第9ポストまでは水田や畑の記載しかありませんが、この四半世紀で多くの住宅が建ち、様相を一変させています。ポストはつつじで有名な施無畏寺の石段を上った境内に置かれています。すでに18時40分であり、参拝は遠慮しました。

薄暗くなり始めるなか、残りは交通量の多い国道254号線を歩くのみですので不安感はありません。文真堂書店一の宮店のある交差点を右折すると、堂山稲荷古墳で最終ポストを発見します。上州一ノ宮コースが設置された当初から使われている年季入りのポストですが、しっかりとメンテナンスが施されているため、まだまだ現役を続けられそうな状態です。

国道に戻ると上州一ノ宮駅まで残された距離はわずかです。ゴールは19時3分。所要3時間22分ですから、現役の10kmコースにしてはたっぴりと時間をかけて歩いたこととなります。

昨年、富岡製糸場の世界遺産への申

請が認められる中、富岡の地からオリエンテーリングの火が消えるのは残念でなりません。パーマネントコースブームの真っ只中にコースを作り、長年管理してこられた地元クラブの方々には頭の下がる思いです。

食も魅力の上州路

翌日の甘楽の里・グリーンランドコース巡りを控えてこの日は高崎に宿を予約していましたが、土井氏のおススメで逆方向の下仁田へいったん向かいます。目的はカツ丼。下仁田といえはまず最初に思い浮かぶのはネギやこんにゃく。カツ丼が名物なんて聞いたことがなく、最近流行の後付ご当地B級グルメの類かと、さほど期待も抱かずに上信電鉄に揺られます。下仁田駅には上州一ノ宮から16分程で到着。ローカルムード満点の終着駅は、まるで寅さんがふらりと歩いてきそうな雰囲気があります。駅前近くの旅館常盤館を飛び込みで訪ね、カツ丼を所望すると格調高い一室へ通され、恐縮しきり。750円のカツ丼を2人分頼むだけではあまりに雰囲気とのギャップがあり、ビールと刺身こんにゃくも注文します。しばらくして出てきたカツ丼は、玉葱とともに卵とじをするものではなく、醤油味のたれで味付けされたトンカツがごはんの上に乗っています。見た目はソースカツ丼とそっくりですが、口に運んでその美味さにびっくり。たしかに醤油なのですが、やさしい味となって全体を包んでいます。にわか作りのB級グルメなどではなく、その歴史は大正時代まで遡るそうです。こんにゃくも絶品で、思いもかけず出会えた贅沢な夕食に大満足。冬は名物のネギを主役に、こんにゃく、上州牛、さらに豆腐やしいたけまで地元産の食材を使ったすき焼きが名物だそうで、再訪を女将に約束して後にしました。



上信電鉄沿線では山名丘陵と吉井の2コースを残すのみとなりましたが、見所満載の上州路は魅力たっぷりです。

(2013年6月1日 踏破)
(大高竜亮)